

## 薬剤師国家試験の実施状況

試験回次	新 卒			そ の 他			合 計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
	名	名	%	名	名	%	名	名	%
75 (2年)	8,832	7,901	89.46	1,466	879	59.96	10,298	8,780	85.26
76 (3年)	8,885	7,540	84.86	1,403	656	46.76	10,288	8,196	79.67
77 (4年)	8,546	6,712	78.54	1,901	785	41.29	10,447	7,497	71.76
78 (5年)	8,297	7,232	87.16	3,010	1,819	60.43	11,307	9,051	80.05
79 (6年)	8,415	6,921	82.25	2,460	951	38.66	10,875	7,872	72.39
80 (7年)	8,790	7,055	80.26	3,192	1,459	45.71	11,982	8,514	71.06
81 (8年)	8,825	7,473	84.68	3,112	1,681	54.02	11,937	9,154	76.69
82 (9年)	8,747	7,367	84.22	2,835	1,362	48.04	11,582	8,729	75.37
83 (10年)	8,548	7,010	82.01	2,982	1,377	46.18	11,530	8,387	72.74
84 (11年)	8,506	7,328	86.15	3,233	1,723	53.29	11,739	9,051	77.10
85 (12年)	8,620	7,625	88.46	2,909	1,588	54.59	11,529	9,213	79.91
86 (13年)	8,208	6,901	84.08	2,475	1,207	48.77	10,683	8,108	75.90
87 (14年)	8,367	7,412	88.59	2,781	1,597	57.43	11,148	9,009	80.81
88 (15年)	8,345	7,387	88.52	2,505	1,415	56.49	10,850	8,802	81.12
89 (16年)	8,504	7,349	86.42	2,544	1,304	51.26	11,048	8,653	78.32
90 (17年)	8,626	8,047	93.29	2,964	1,734	58.50	11,590	9,781	84.39
91 (18年)	8,455	7,200	85.16	2,591	1,002	38.67	11,046	8,202	74.25
92 (19年)	8,791	7,525	85.60	3,321	1,629	49.05	12,112	9,154	75.58

## 問題形式 (参考)

問1 次の基本骨格のうち、レセルピン、リゼルグ酸ジエチルアミド (LSD-25)、セロトニンなど精神機能に関連深い物質の化学構造に共通するものはどれか。

- 1 ステロイド    2 イソキノリン    3 ピリミジン    4 イミダゾール  
5 インドール

問2 薬剤師に関する記述のうち正しいものはどれか。すべてが誤っている場合は解答用紙の5の□をぬりつぶせ。

- 1 薬剤師は、いかなる場合にも、本人の意思に反していったん与えられた免許を取り消されることはない。  
2 薬剤師国家試験に合格した者は、すべて申請により薬剤師免許が与えられる。  
3 薬剤師は、その住所地を変更した場合には、薬剤師名簿の訂正を申請しなければならない。  
4 薬剤師は、免許証を破り、よごし、又は失ったときは、免許証の再交付を申請することができる。

問3～4 第I欄の記述は脂肪の消化と吸収に関するものである。□の中に入れるべき字句は第II欄のどれか。

### 第I欄

食物中の中性脂肪は胃においても一部消化されるが、その大部分は小腸に至り膵液中のリパーゼの作用を受け、主として□問3と脂肪酸に加水分解される。これはさらに□問4によりミセルを作り、小腸粘膜に吸収される。

### 第II欄

- |    |               |               |        |
|----|---------------|---------------|--------|
| 問3 | 1 グリセリン       | 2 1-モノグリセリド   |        |
|    | 3 2-モノグリセリド   | 4 1, 2-ジグリセリド |        |
|    | 5 1, 3-ジグリセリド |               |        |
| 問4 | 1 アミロペクチン     | 2 コレステロール     | 3 胆汁酸塩 |
|    | 4 ビルルビン       | 5 ポリペプチド      |        |

問5 次の記述はけい光光度測定法に関するものである。正しいものの組合せはどれか。

- a けい光光度測定法において、けい光波長は励起波長より短い。
- b けい光光度測定法において、けい光波長は励起波長より長い。
- c けい光波長と励起波長との長短は、物質によりまちまちである。
- d 励起波長が変化すると、放射するけい光波長も変化する。
- e 励起波長が変化しても、放射するけい光波長は物質固有で変化しない。

- 1 (a, d)      2 (a, e)      3 (b, d)  
 4 (b, e)      5 (c, d)      6 (c, e)

問6 粉末薬品の混合に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 粉末薬品の混合は、粉末の真の比重に近いほど容易である。
- b 粉末薬品の混合は、いかなる場合も混合を長時間行うほど混合度が良くなる。
- c 混合度を測定するため、3次元的不作為に採取したN個のサンプル中の薬物濃度を測定し、仕込濃度（真の平均濃度  $W/W$ ） $\bar{C}$ よりの分散 $\sigma$ を算出した。この $\sigma$ が $\bar{C}(1-\bar{C})$ の値に近いほど混合度は良い。
- d 粉末薬品の混合は、粒子間の結合性、付着性が小さい場合には粒子径に近いほど容易である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	正